

# 概要報告

実施期日	令和7年8月5日（火）
部会名	中学校 美術部会

## 研究主題

主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

## テーマ

### 『絵から物語をつむぐ～感じる・考える・伝える～』

## 提案概要

実践題材名「絵から物語をつむぐ～感じる・考える・伝える～」

課題意識として、美術の課題に積極的に取り組む生徒が多い一方、自身の考えを発信する場になると否定を恐れてしまう生徒や、他者の意見を否定してしまう生徒がいる。鑑賞を通して他者の感性や個性を認め合う雰囲気づくりをし、対話を通して異なった見方や考え方を尊重することができるとともに、道徳的な見方・考え方を身に付けることができるような授業にしていくことを提案とする。

作品を鑑賞する中で、造形的な特徴や人物や情景を全体のイメージで捉え、登場人物の心情や表現の意図と工夫などについて考え、自分なりの物語を想像して表現する。また、自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなものの見方や考え方があることを理解し、自らの考えを深めていく。

授業のプロセスは以下の通りである。

- (1) 導入(1時間) 絵から物語を想像する。アンドリュー・ワイエスの「クリスティーナの世界」を、学級全体で対話型鑑賞する。
- (2) 個人で鑑賞(1時間) 「眠るジプシー女」「大家族」「風船と赤い少女」「叫び」「オフィーリア」の5つの作品のうち、いずれか2点を選び、ワークシートもしくは学習支援ソフトに個人で鑑賞したことを記入する。
- (3) 鑑賞したことをまとめる(1時間) 前回選んだ2つの作品から、どちらか一つの作品を教師が選び、人数や人間関係などを配慮してグループ分けをする。(1作品5～6人)
- (4) グループ内で共有・発表(2時間) グループで集まり、自分の考えた物語を発表する。学習支援ソフトの共有機能で、同じ作品のグループの物語を読む。感想を伝え合い、全体発表に向けて役割分担を行う。
  - 発表の流れ(1グループ8分)
  - ①リーダーは、作品をテレビ画面に映した状態でファシリテータとなり、全体に向けて「何が見えますか？」と発問し、「場所」「時間」「音」「匂い」「登場人物について」「状況」などについての質問を投げかける。
  - ②回答した生徒に対して「どこからそう思いましたか？」と聞き返し、より具体的な理由を共有する。基本的にはどの回答に対しても肯定的に返答して終える。(3分)

- ③グループ内で発表する物語を2つ決め、発表する。なるべく違う傾向の物語を選んでおく。また、物語を考えた人ではない人が発表係となる。(5分)  
全員が役割をもつように、スライド係なども配置する。
- ④鑑賞を終えての振り返りを記入する。

#### 質疑応答

なし

#### 協議の柱及び協議概要

協議の柱

「考える力を育むための授業の工夫」

\*参加者にワークシートを配布し、「発達段階に合わせた鑑賞活動」というキーワードで、小中合同のグループに分かれて話し合いをする。数グループに話し合った内容を発表してもらう。

#### ●グループからの発表

- ・友達の作品を鑑賞することから始める
- ・低学年から始め、毎年継続することで、語彙や考え方が広がっていく
- ・歴史や背景を学んだ上で学習していく
- ・自然と作品が目に入ってくる環境をつくる
- ・アートカードを活用する
- ・教師がナビゲートする
- ・全体ではなく、生徒同士で自身の作品を鑑賞する
- ・作者の意図を考慮しながら考える
- ・見るポイントを明確化する
- ・評価を明確に提示する

#### まとめ概要

授業については、作品鑑賞を通して、自身の考えを発信し、他者との考えの違いや良さに気づき、新たな自身の考えへと繋げることができる内容であった。道徳的な発想もあり、子どもたちがより自由に発想することができる、きっかけとなる活動であった。

一方で、子どもに考えさせる際に、形や色彩など、要素としての言葉を使い、根拠をもって表現できるようにすることや、言葉の表現が苦手な生徒への手立てをしていくこと等が課題となる。また、作者の意図や、作品の背景等の学習をする事でより深い学びが期待できることが考えられる。

グループ協議では小学校と中学校の教員が混ざっている状態で行われ、それぞれの学校環境での情報や意見を交換しながら、議論が行われた。発達段階に合わせた様々な学習方法の共有や、本題材の課題点や改善点が話し合われた。